

出題分析		
試験時間 60分	配点 100点	大問数 5題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]	
<p>【概評】</p> <p>大問構成や問題数は昨年とほぼ同一であった。出題範囲は古代～現代で、歴史総合範囲からの出題が昨年と比較して倍増した。弥生時代以前からの出題はなかったが、現代史では2000年代の出来事まで問われた。例年出題される史料を踏まえた論述問題は昨年と同様に100字2問が出題され、おおむね標準的な知識や史料の読み取りで解答可能なものであった。標準的な設問が並ぶ大問もあったが、大きく増えた歴史総合範囲からの出題では日本史学習者には厳しいと思われる細かい知識が問われ、中でも多くの受験生が苦手とする直近の時代からの出題が多かったことを踏まえると、全体的に難化といえるだろう。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	古代の政治・社会	古墳～平安時代からの出題で、おおむね基本的な内容であった。(イ)B. 1の『宋史』は960年成立の王朝である宋を扱った史書であり、紛らわしい。(ニ)Q. 大宰府管内に設置された9の公営田との混同に注意。	やや易
II	現代の政治・国際情勢	現代(1980～2000年代)からの出題で、歴史総合範囲からの出題が大半を占めた。いずれも歴史総合の教科書通りの内容ではあるが、日本史学習者にとっては厳しいものであつただろう。(イ)オスロ合意に関する事項が問われた。パレスチナ問題については、時事を押さえればある程度解答できたかもしれない。(ロ)アメリカ同時多発テロ事件とそれに続く対テロ戦争の細かい過程が問われた。(ハ)リーマン＝ショックと同時期の国内政治について問われた。M・P. この中では比較的解答しやすく、正解したい問題。	やや難
III	古代～近世の寺院	主に平安～江戸時代の文化史を中心とする出題で、いずれも標準的な事項が問われた。D. 元号を冠した寺院としてはあまり意識しなかったかもしれない。E. 頼朝か頼家で迷うだろう。	標準

設問別講評			
IV	近世の政治・社会 (史料)	豊臣政権の土地・身分政策に関する、初見史料を含む3つの史料に基づいた出題。短答記述問題は一部を除いて標準的な難易度であった。問1. (ハ)の史料が刀狩令であることから判断したい。問2. 受験ではあまり登場しない用語であり、難。問3. 史料中の空欄補充は難しいが、設問の「その年の作柄を調べて税率を決める方法」から検見法を想起したい。問6. (ハ)の刀狩令が1588年に出されたことを知っていれば、問5の設問文よりその前年とわかる。問9. 秀吉の土地・身分政策に関して論述する問題。史料から百姓に対する保護と統制を読み取り、検地や刀狩に関して持っている知識と組み合わせて考えたい。	標準
V	近代の政治 (史料)	立憲政体に関する大久保利通の意見書を題材とした出題。歴史総合範囲からの出題が含まれ、他にも細かい知識を問うものが見られた。問1. 教科書では掲載史料の説明文に記載があるが、やや細かい。問3・4. いずれも日本史学習者にはなじみがないだろう。問7. 難。問8. 山川捨松は、のちに元老の一人に数えられる大山巖と結婚したことで知られる。問9. 史料中に述べられている、民主政治の長所・短所とその評価を論述する問題。史料の読み取りのみで解答可能であるため、内容の要点を押さえて解答したい。	やや難

合格のための学習法

慶應義塾大学文学部の日本史への対策は、合格に必要な得点を考えれば、教科書・用語集を用いた徹底的な知識の定着、それに加えて形式に慣れるための過去問演習をしっかりと積み重ねることに尽きる。過去問に見られる難問に注目しがちで不安になるだろうが、まずは得点しなければならない標準的な問題をきっちり正解するという意識を持つことが重要である。とはいえ、やはり細かい知識も用語集に掲載がある限りは出題されるものと認識して取り組むべきであろう。理解した事項をいつでも引き出せるように知識を体系化しつつ、学習してほしい。また、歴史総合範囲からも出題されているため、しっかり対策は積んでおきたい。論述問題については、過去問などを利用し添削を受けて書き直すことによって上達するので、添削を依頼できる先生などに見てもらって、文章を書く力を培ってほしい。